

令和8年（2026年）度 九州大学法学部 3年次編入学試験

## 筆記試験

（法学又は政治学に関する論述問題）

（注意）

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題用紙は（この表紙及び白紙1枚を除いて）1枚、解答用紙は4枚（2枚組が2セット）、下書き用紙は3枚である。「解答始め」の合図があったら、まず全ての用紙が揃っているかを確認すること。
3. 「解答始め」の合図の後、すみやかに、解答用紙（4枚）の所定欄に受験番号を記入すること。
4. 問題は、大問が2問ある。第1問、第2問それぞれにつき、解答用紙を分けて解答すること。
5. 解答文は横書きとし、ボールペンまたは万年筆を用い、読みやすい文字で記入すること。

第1問 (50点)

刑法第43条は、「犯罪の実行に着手してこれを遂げなかった者は、その刑を減輕することができる。ただし、自己の意思により犯罪を中止したときは、その刑を減輕し、又は免除する。」と定めている。当該条文に関する以下の各問に答えよ。

- (1) 刑法43条は「何犯」規定と呼ばれているか。
- (2) 「刑の減輕」とはどのような意味か。
- (3) 現行刑法は、犯罪の実行に着手してこれを遂げなかった者をすべて処罰する立場か。
- (4) 「実行に着手して」というのは、どの段階のことを指すかについての主要な学説の対立について説明せよ。

第2問 (50点)

- (1) 全体主義体制、権威主義体制、自由民主主義体制のそれぞれの違いと特徴について、具体的な例をあげながら、説明してください。
- (2) 非自由民主主義体制が自由民主主義体制へと移行し、定着する条件について論じてください。

※ (1) の解答は一枚目の解答用紙に、(2) の解答は二枚目の解答用紙に記入してください。